

# 所報 あきた

所報あきた 142号

令和8年1月15日発行

発行所 曹洞宗秋田県宗務所

発行責任者 袴田俊英

〒010-0812 秋田市泉三嶽根15-18

TEL (018)868-6871

FAX (018)868-6872

<http://soto-akita.com>

[info@soto-akita.com](mailto:info@soto-akita.com)

題字 能代市倫勝寺 山田晃一  
写真 想花翁



本年もご指導・ご支援よろしくお願ひ致します。

秋田県宗務所役職員一同

---

○ 令和7年 事業報告(宗務所だより)・他

---

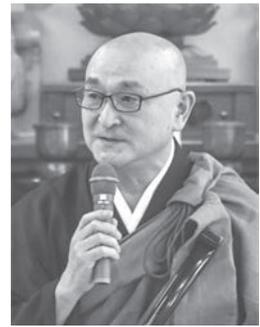
令和7年9月22日 仏教講座 野外研修



北秋田市綴子 宝勝寺様にて



北秋田市七日市 龍泉寺様にて



## 新年に当たって

秋田県宗務所 所長 袴田俊英

皆様、あけましておめでとうございます。恒例の一年の世相を表す「今年の漢字」。昨年の漢字は「熊」が選ばれました。秋田に住む者にとっては納得のいく選択です。人が集まると熊の話が始まり、暗いうちはゴミ出しにも行けないという毎日でした。今年はブナの実も豊作になるという予想ですが、当たることを祈るばかりです。

今年も宗務所員の任期も最後の一年となります。前回の所報でご報告した通り、現在宗務所事業の見直しを行っております。なるべく所費を上げることなく、教化事業を持続できるよう、また、宗務所の建物も維持していけるよう、鋭意検討中であります。昨年七月の決算所会で素案について様々なご意見をいただきました。それらを含め、改めて三月の予算所会に改正素案を提示し、各関係の方々と協議し基本方針を固めたいと存じます。

一昨年の繰越金がおよそ八百万円で、コロナ禍で繰越金が多かった時期を除いて

も、三割以上の減少となっております。所費が納入されるまでの二か月間の運転資金を考えると、経費削減は喫緊の課題となっております。さらに追い打ちをかけるように物価上昇は続いており、経常経費の増加はもとより、三五年を経た建物の修理、それに伴う設備の更新などは、今後さらに宗務所財政を圧迫することになるでしょう。先んじて手を打たなければなりません。関係各位におかれましては意のある所をお汲み取り頂き、さらに宗務所が行うべき教化事業の内容が聊かも損なわれぬため、ご協力ご指導をお願い申し上げます。

昨年十二月十八日全国所長会が開催されました。この所長会の質疑では、毎回のように首座不足の問題に対し宗務庁の見解が問われます。秋田管内でも結制を置いていない住職様が若干おられます。修行道場ではすでに首座を終えたものが再び第一座を務める「配役首座」が認められています。深刻な状況になっている宗務所もあるよう

で、宗制を変えてほしいと訴える旨の質問が出されるのですが、「正伝の仏法を標榜する曹洞宗の三師の制度を変えることになり、非常に難しいことである」との答弁が、これも毎回のようになり返されます。

宗務庁もこの問題を軽視しているわけではなく、立身未了者の情報を集約して首座を求める方に提供する制度を作りました。情報提供を希望する場合、宗務庁に直接立身未了者情報提供願を提出することで、いわゆる首座候補者がどの寺院にいるのかわかることとなります。宗務所も申請のお手伝いをいたしますので、ご相談ください。

得度者の減少は深刻な状況になっており、現在は人口減少率を上回っております。首座ばかりではなく修行僧の減少、さらには教師数の減少と、問題は時間の経過とともに大きくなってまいります。秋田県管内でも後継者不足は問題となってきました。決め手となる策はなかなか見つかりませんが、宗務所としても重要な課題としてことあるごとに取り上げてまいりたいと思っております。

私ども職員も今年十二月十日まで一年を切りました。全力で残りの任期を務めあげますので、更なるご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたしま

# 事業報告(宗務所だより)

九月二十二日

仏教講座 野外研修

宝勝寺・龍泉寺様

参加三五名・寺院一〇名

御仏をそばに

永井 円美

かつてはこの家庭でも行われていたように、お盆とお彼岸の墓参は欠かさず、家では戴き物や初物、珍しい食べ物必ず神仏にお供えしてから食べるのが習慣になっていました。物心ついた頃から日常の中に「仏様」はあり、祖父母や両親が行っていたことを見様見真似で続けてきました。退職後、誘われて写経会に顔を出したことを契機に「仏教」を一層身近に感じられるようになりました。

昨年、初めて「野外研修」に参加して、菩提寺以外のお寺に参詣する機会をいただき、境内や堂内の様子



宝勝寺様 本尊

法話 宝勝寺 秩父 孝昌 住職



が寺院によつてずいぶん違うことに驚きました。また、各住職様が由緒あるお寺を受け継ぎ、次代に継承していくこうとする責任感や使命感、情熱を強く感じる事ができました。普段の檀家側からの視点では気づかないことばかりで視野の広がる思いをしました。そして「来年も必ず参加しよう」と思ったのでした。

さて、秋晴れの九月二十二日、快調に走るバスに身を委ねて北秋田市綴子の珠光山宝勝寺様に向かいました。ご住職が山門の外までお出迎えくださり、ご挨拶もそこそこに、早

戦没者供養 ○観音菩薩立像



速、由緒ある山門の解説をしてくださいました。手入れの行き届いた境内を通って本堂に入り、さらに法話をいただきました。中でも多くの参加者が驚いたのは、お堂の天井近くまでびっしり並んだ軍服姿の遺影でした。檀家や地域の方々の無念や悲しみ、供養の思いが降り注いでくるように感じました。そんな中で日々、ご住職が平和への願いを強く持ちながらお勤めなさっていることに心を打たれました。

昼食を挟んで、午後は高昌山龍泉寺様を訪れました。新築の明るくモ



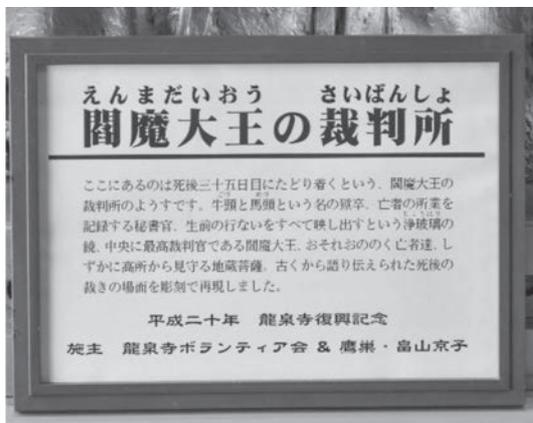
龍泉寺様 二本尊

ダンな仏堂にまず、目を見張りまし  
た。ご本尊前の欄間に絡みつく巨大  
な龍、本堂にはばたく鳳凰、「仏像」  
の概念を超えた達磨大師などの芸術  
に見とれると共に、焼失後に檀家や  
地域のためにと懸命に再建なさった  
ご住職のご労苦に頭が下がりました。



法話 龍泉寺 佐藤 俊晃 住職

江戸時代に、現代の戸籍制度の  
代わりとなる「檀家」という制度が  
設けられました。故人の遺志に  
より「・・・」という名文句(?! )の  
下で葬儀は簡略化されて檀家も葬儀  
もお寺界隈のことは急激に変化して  
いる。寺院に人を呼び込む企画  
が多方面で行われています。「おて  
らの情報誌『らて』」を愛読しなが  
ら、各寺が地域の中核として親しま  
れ、地域の諸問題解決の一端を担う  
存在になるように祈っています。



日 程  
九 時 三 十 分 禅センター出発  
十 時 三 十 分 宝勝寺様拝観  
十二時 昼食  
十三時三十分 龍泉寺様拝観  
十六時 禅センター到着  
(拝観時間は各約一時間)



本堂正面 竜神様



実相寺住職 大佐賀正信宗師

坐禅指導



写経指導 東光寺副職 鈴木慶道宗師

○九月五日  
 仏教講座 ②  
 写経会 参加 一三名  
 講座 参加 二六名



最禅寺住職 森田昭善宗師

仏教講座②講義



永泉寺住職 猪股尚典宗師

仏教マメ知識②



林清寺副住 松山純正宗師

仏教マメ知識①



大泉寺住職 鷹照悟堂宗師

仏教語解説



龍泉寺副住 佐藤修吾宗師

坐禅指導



光岸寺住職 佐藤道彦宗師

仏教語解説



耕傳寺住職 砂川文佳宗師

仏教マメ知識

写経指導 寶袋院住職 森田治人宗師

○十一月二十八日  
 仏教講座 ③  
 写経会 参加 六名  
 講座 参加 一七名



閉講式(納経供養)



講義後 茶話会の様子



鷲泉寺住職 島山晋吾宗師

仏教講座③講義



追悼法要 平和祈念御和讃奉詠



開会法要 導師 袴田所長

○九月十七日  
 梅花流秋田県七十周年  
 記念奉詠大会  
 ～悠久の平和を願うお唱え～  
 会場 秋田キャッスルホテル  
 大会参加 三〇九名



登壇奉詠(各梅花講合同)



お誓い 林清寺講 永井 譲 さん  
永井美喜子さん

終了後に檀信徒講員さん六〇名・僧侶寺族さん三五名参加の懇親会を開催致しました。初の試みでしたが、大変楽しい時間を過ごすことができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。



清興 露の団姫師匠  
「落語家・まるこの仏道修行」



登壇奉詠(師範・詠範の皆さん)

今回は初日に伊丹空港へ飛び、バスで福井に移動、一乗谷朝倉遺跡を見学後、午後四時に御本山に入りました。研修は、食事の作法・法話・坐禅、翌日は午前三時半起床し、坐禅・朝課・終了後、参加者全員で禅師様と記念撮影することができ、さらに御本山の諸堂を拝観いたしました。その後、京都・奈良を観光し、最終日はキトラ古墳見学後、伊丹空港より無事に帰路につきました。



開講式(御本山大講堂にて)

○十月十五～十七日  
 本山研修(大本山永平寺)  
 参加者 六九名  
 随伴寺院 五名 他所員



朝課 法堂にて(進前焼香)



坐禅 修行僧さんの指導にて(午後八時頃)



奈良 桜井平等寺様にて 法話 丸子孝法老師



京都 宇治興聖寺様にて



講義① 数人寄れば文殊の知恵  
〜僧侶・寺族が今できること、  
その可能性を考える〜  
講師 岩手県(宗務庁派遣)  
大興寺住職 桐野好覚宗師

○十月十日 現職研修会  
会場 秋田市歓喜寺様  
参加 一四九名

私達を取り巻く厳しい現実の中で「対話力を身に付ける方法」・「行持を通して研鑽する事の大切さ」・「如何に『お寺の魅力』を伝えるか」を様々な角度からご教授いただきました。『気付き』が沢山あり、元気が出てくる研修でした。ご参集ありがとうございました。



講義③ 現代日本仏教の使命  
今こそ「がんばれ仏教！」  
講師 東海学園大学特命副学長  
上田紀行先生



講義② 正法眼蔵 行持の巻  
祇園正儀の部分を中心に  
講師 長野県伊那市  
常圓寺住職 角田泰隆老師

十一月七日  
 寺族研修会  
 会場 宗務所・禅センター  
 参加 三七名

寺族中央集会報告

報告 第十三教区

延命寺寺族 阿部若子さん



寺族中央集会資料を用いてご報告  
 いただきました。

○しなやかに、私らしく生きる

ための『仏教の智慧』

～四摂法という教えから～

本多 清寛 老師

○寺院におけるカスタマーハラスメ  
 ントへの対応～法的知識と心構え

雨宮 史尚 弁護士



研修 数人寄れば文殊の知恵

～僧侶・寺族が今できること、

その可能性を考える～

講師 宮城県(宗務庁派遣)

満福寺副住職 菊地志門 師

少人数の班で、課題について意見  
 を出し合い内容を報告する事を繰り  
 返して「対話」の研修をしました。

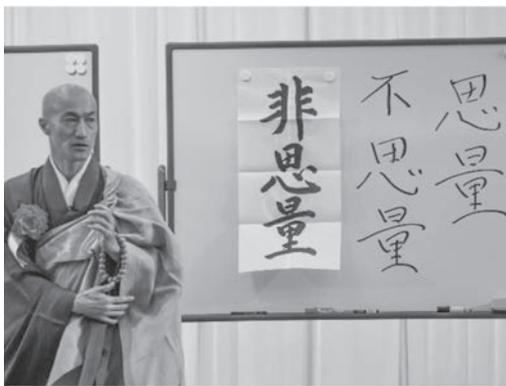
十一月十九日  
 禅を聞く会  
 会場 秋田キャッスルホテル  
 参加 一五〇名

記念講演

「柔和のことば～柔和質直者～」

講師 岩手 北上市

永昌寺住職 海野 義範 老師



元プロスキーヤーで約十五年の社  
 会人経験を持ち、曹洞宗特派布教師  
 でもあるご老師より、自分が今に至  
 るまでの事。坐禅本質『非思量』を「目  
 の前の事をありのままに見る」と納  
 得できるまでの経緯。被爆の体験を  
 伺ったときの「優しく柔らかくお話  
 をする人」を「柔和質直者」と実感  
 できた大切な体験をお話いただきま  
 した。椅子坐禅も体験し、有意義な  
 時間となりました。





戦後八十年戦没者慰霊供養  
導師 袴田所長



- 住職永年勤続六十五年
- ⑧ 龍泉寺住職 川村 一途宗師
- 住職永年勤続六十年
- ⑩ 西光寺住職 嵯峨 宗一宗師
- 住職永年勤続四十年
- ⑨ 海蔵寺住職 伊藤 良弘宗師
- ⑮ 宝泉寺住職 島 正恵宗師
- 住職永年勤続三十年
- ⑨ 法輪寺住職 酒井 文雄宗師
- ⑪ 吉祥院住職 金澤 一弘宗師
- ⑫ 普門院住職 本間 雅憲宗師
- ⑬ 永源寺住職 嵯峨 義房宗師



設立集会(式典)  
被表彰者(○印の中は教区番号)

- ⑭ 雲昌寺住職 今川 俊道宗師
  - ⑯ 東泉寺住職 佐藤 一應宗師
  - 寺族表彰
  - ③ 泉流寺寺族 佐藤 千里様
  - ④ 檜淵寺寺族 佐藤さとみ様
  - ④ 太平寺寺族 三嶋 綾子様
  - ⑤ 龍泉寺寺族 村田磨理子様
  - ⑨ 梅林寺寺族 木村満寿子様
  - ⑪ 鏡得寺寺族 柏葉 俊子様
  - ⑪ 龍江寺寺族 沼澤 安子様
  - ⑬ 洞泉寺寺族 小嶋 優子様
  - ⑬ 本明寺寺族 櫻田 博子様
  - ③ 蔵堅寺寺族 門脇 舞子様
  - ⑦ 常泉寺寺族 田口 美生様
  - ⑨ 月宗寺寺族 袴田 瑞穂様
  - ⑮ 西蔵寺寺族 柿崎 淳子様
  - ⑯ 永泉寺寺族 寿松木美和子様
- 今後ともよろしくお願ひ致します



⑬ 本明寺住職 櫻田 大啓宗師

# 五番山抄



この紙面は皆様の思惑  
を掲載するフリーペー  
ジです

## 第十四・十五教区の皆さんの声

### 警察協議会で感じたこと

龍雲寺住職 檜 岡 龍 祥

二年前、縁があつて由利本荘警察協議会の委員を務めることになりました。とある檀家さん宅でのご法事の際に、奥様から「私の任期が終わるので、後任をお願いしたい」と言われたのがきっかけでした。最初は「社会経験や知識の乏しい自分に務まるのか」という思いでしたが、奥様の「他に頼める人がいなくて」と困っている様子「私でよければ」と引き受けることにしました。

協議会では、交通安全対策や災害

時の避難体制、特殊詐欺の防止策など私達の暮らしに関わる話が話し合われます。始めに警察署員の方から現状の説明があり、その後委員が意見や質問をするという流れです。

お寺にしていると、普段から檀家さんと話をする機会が多いです。その時「最近変な電話がかかってきて不安だ」とか「あそこの道路は見通しが悪くて危ない」といった困りごとも耳にします。これまではその場だけの話で終わっていたのが、協議会の委員になってからは、それを会議の場で地域の声として伝えられるようになりました。また、警察署員と委員の皆さんが、地域のために真剣に意見を出し合うのを見て、安心な暮らしというのはお互いに知恵を出し合つて、支えあうことで作られていくのだと感じました。経験や知識は乏しくても、地域を思う気持ちがあれば、何かできることはあるのだと学びました。

私の任期は残りわずかとなりましたが、この貴重な経験を糧に、これからも僧侶として、また市民として自分にできることを続けていきたいと思えます。今ではこの機会を下

さつた檀家の奥様に感謝していま

そうだ！雪かきをしよう！

太白院住職 今 野 眞 保

当地は日本海の沿岸に位置し、出羽富士・鳥海山（標高二三三六メートル）まで海岸線からわずか一六キロという急峻な高低差があり、海浜から山岳地まで、変化に富んだ豊かな自然に恵まれています。

海岸近くにある我が家はみぞれ交じりの雪ですが、ここから山側に五から六分も車を走らせれば、既に三〇センチ以上の積雪となり、そこかしこで、競うようにお年寄りが家の周りの雪寄せをする姿が見られます。

清濁ともに覆い隠してくれる雪化粧の中で、年が改まるからといって今までの過ちが帳消しになるわけもないのに、年の暮れには急に身の回りを片付け始めます。終わりが見えない仕事になんとかつじつまを合わせて、新しい年を迎える気分を整えます。

年越し蕎麦を食べながら紅白歌合

戦を見て、テレビ越しに除夜の鐘を聞けば、「根拠はなくとも、新しい年は何故だかきつと良いことがある」と思える自分に、少しばかりの幸せを感じています。

この根拠のない新年への期待感、どこから来るのでしょうか。たぶん、見えない未来を予測する際、自らの過去の経験（悲喜交々）に照らして現状を鑑みるのであれば、蓄積された成功体験が多いほど、希望的未来を予測できるのでしよう。しかし、加齢のために感受性が衰えているのか、最近はどうも子ども頃のような新鮮な「経験値」が少ないことに気づかされます。

コロナ禍以来、マスクで表情を隠し、密を避ける生活が、経験値の不足に拍車をかけました。加えて、コミュニケーションさえも画面を通したりモート、業務負担軽減のためのICT化、難しい判断さえAIがしてくれる昨今では、自分の直接体験から生まれる経験値で、どれほどうまくいきそうな未来を予想できるか心もとなくなりそうです。

私の中では、かつて手に入れられなかった豊かさを、それなりに心身を働かせて手に入れた「昭和」を過

「ごした経験値があることが、根拠のない期待感を支えているのかもしれない。」

最近ロボット掃除機を買い、その健気な働きぶりに感動している私が言うのも何ですが、どうも世の中が合理性、経済性、利便性を求めるあまり、自分の直接的な体験を遠ざけることを「良し」としているように見えます。他からの情報を駆使して、いかに少ない労力で大きな成果を得るかに腐心しているようです。

私自身も、日々モニターに向かって数字を重ね、自分の役割に心が伴わなくとも物事が進むことに慣れ、机に向う時間が増えるほど、自らの心身を動かさずに進む仕事に、何か小賢しいことをしているような後ろめたさが募っていきます。

頻繁に起こる自然災害、地域紛争の激化、世界経済の不安定化など、従来の経験からは予想しがたい状況下です。これから生きる子ども達には、巡り来る新年をどんな希望を持って迎えるのでしょうか。

外はみぞれから本降りの雪へと変わっていく様子。私も、いくらかでも希薄な希望と募る後ろめたさを埋めるため、「直接体験値」を増やす

べく、思い立って雪かきを始めることにします。

見る見るうちに真っさらな雪原となった原っぱへ、寒さを気にせず駆け出す子ども達。そして「ノツツ、ノツツ」と降り積もる雪の中、黙々と雪寄せをする老婆に、新しい年の幸多からんことを願うばかりです。

### 久しぶりの永平寺

秀泉寺住職 宮本 秀明

久しぶりに永平寺に行ってきた。私は平成元年安居で、同安居は百名前後いました。その中で他界されてしまった方が三名おり、同安居で供養しようとのことで、苦楽を共にしたあの永平寺で尊宿諷経をあげる運びとなったわけです。

秋田から福井は遠い。新幹線で最短でも七時間余りかかるので長時間の苦痛を覚悟しました。ところが久しぶりの新幹線では、ものすごいスピードで過ぎ去っていく車窓の景色が新鮮に感じられ、なんだか楽しく、集合場所の福井駅到着まではあっという間でした。

見覚えのある顔・顔・顔。顔は覚

えているものの名前が出てこない。その上、みなさんそれなりにお年を召しているから、昔の印象に比べずいぶん顔や体が大きくなっておりました。変わらないのは頭だけ。

道中「あれ『天山』まだ有るじゃないか。バットいっぱいいたいたコロッケはうまかったな。」などと会話する中で、次第に当時の記憶が蘇ります。「なんとも懐かしい景色だなあ。」などと思いながら、新しくできたもの。既に無くなってしまったもの……。時の流れを感じつつ永平寺に到着しました。

尊宿諷経での八本行道は久しぶりで緊張しましたが大丈夫だったようです。監院添茶後、吉祥閣に戻る途中大庫院の内単に入ることができました。永平寺での修行の中で、一番の思い出の場所です。夢に出てくることもありました。そこにまた来ることができ、感激でいっぱいになりました。自分は確かにここにいた。そしてあの頃のみならず再会し、再び来ることができた。そう思っていると、とにかく得も言われぬ感謝の気持ちがあふれて来るのでした。

### 二十年後の「賢者の石」

耕伝寺住職 砂川 文佳

映画『ハリー・ポッターと賢者の石』に、壁に掛けられた肖像画の人物が動き、言葉を交わす印象的なシーンがある。公開当時映画館で観ていた私にとって、それはあくまで魔法世界のファンタジーとしての受け止めであった。あれから二十余年。AI技術の爆発的な進化により、その光景はもはや空想ではなくなりつつある。

現在、故人の写真一枚と十秒程度の音声データがあれば、AIがその姿や声を精巧に再現し、双方向の対話を可能にする技術が登場している。日本でも複数の企業がこうした故人AIサービスを展開しており、グリーフケアの一助として注目を集めている。

実に驚くべきAIの進化であるが、私は違和感を覚えずにはいられない。亡くなったあの人もう一度話をしたい、その切実な願いは痛いほどよく分かる。だが、二度とかなわないという峻厳な事実を受け入

れ、不在を実感することが遺された者が歩むべき道なのではないだろうか。

「もし現代にお釈迦様が生きておられたら、故人Aをどうご覧になるだろうか…」ふと浮かんだこの疑問をAに問うてみると「今どき」と言えるのかもしれない。

故人Aを「執着」を増幅させる技術と捉えるのか、あるいは慈悲の形と捉えるのか。いずれにせよ、技術が命の境界線を曖昧にする今、私たちは「正しく失うこと」の意味を問い直す必要がある気がしてならない。

### 真剣に取り組むこと

蚶満寺徒弟 横山 智弘

令和七年は秋田県の超人気が当地ヒーロー「超神ネイガー」生誕二〇周年の年でありました。ネイガーさんにはかほ市を中心にご活躍されており、以前お寺に（突然）いらしてくれたこともあります。その時は、お互い向かい合って合掌でご挨拶させて頂きました。

さて、去年私は縁あってネイガーさんのヒーローショーにアシスタントとして参加させていただく機会に恵まれました。小学校で夏休み前に行われる防犯教室。SNS等を用いた犯罪への注意喚起として開かれるものですが、それを特別にネイガーさんと協力してヒーローショー仕立てで開催することになり、私もそれに参加したのです。この教室は、各にかほ市内の小学校で行われ、年齢によって注意する点が変わる（低学年は交通ルール、高学年はSNSなど）ので、どの学校も生徒を一〜三年生と四〜六年生に分けて一日に二回行いました。

この体験で、私の印象に強く残った事があります。低学年と高学年で子供たちの態度がまるっきり違ったことです。ネイガーショーが始まると低学年の子は、司会者の呼びかけで素直に「ネイガー助けて！」と大きな声で叫んだり、笑い声を上げておりました。ですが高学年の子たちは大半が友達同士でコソコソふざけあって真面目に返事をしません。むしろ「助けて」と言った子を後ろから噛む、目ではショーを追っていて、表面上は子供騙しで馬鹿馬鹿し

いなという態度をとるのです。

私も子供時代を思い返せばこの高学年の子たちと同じく真剣に物事に取り組む姿勢、楽しむ姿勢が恥ずかしいという気持ちがありました。ですがそれは間違いです。幼いころは気づきませんでした。が本当に恥ずかしいのは変に斜に構えて真剣な人を笑うこと。子どもたちの姿を見てそれを再認識いたしました。

なので、私も今回恥ずかしがらず真剣に、怪人に攫われる小学生の役を全うさせていただきました。

### 野生動物

萬照寺住職 八島 信悦

昨年の県内を賑わしたのは、熊の出没とその被害でした。数年前から報じられてはいましたが、これほどになるとは思ってもみなかったのです。地域によって人々の受けとめ方は様々ですが、当該の私共にとっては深刻です。恵まれた自然・四季を楽しんできましたが、今や外出にもブレーキがかかり、その影響は日常生活に及んでいます。近年、こういった野生動物について「いつでも、ど

こでも、誰でも遭遇する」と言われています。私の体験を記載します。

用事で外出した帰路の事、寺の近くのカーブの坂道を対向車に注意しながら下っていた時、突然数メートル先の藪から熊が出てきました。一瞬車を止めると熊も道の真ん中でこちらをにらんでいます。後退するか、車の勢いで追い払うか迷っていると、熊は藪に走り去り一安心しました。

次はある早朝の事、縁側で配達されたばかりの新聞を広げて目を通していると紙面が暗くなりました。顔をあげて見ると、ガラス戸の向こう側にカモシカがいました。こちらの様子をのぞきにきたようで、びっくりして立ち上がると驚いて逃げてきました。境内を囲む垣根もないので、どこからでも自由に外へ出られるのに、門をゆっくり下りて行ったので、少し滑稽でした。

最後は猪です。九月のある日、午後八時過ぎ、突然花火のような音がします。家族に聞けば爆竹だと言います。寺の近くの畑に猪が出て作物を食い荒らされ、追い払う為との事。被害にあった家からの連絡があったようでした。日中に猪突猛進で来ら

れたら本当に怖いと思いました。

訪ねる人は「自然の豊かさ」を言葉にしますが、こうした一面もあります。特に被害の多い地域の人々を思うと、安全な暮らしを願わずにはいられません。

## 仏教の歩んだ道

龍泉寺住職 岡部 顕雄

高祖が携え還った正伝の仏法、また仏教の歩んだ道を簡略的ですが調べてみました。

一二三三年（貞応二年）に、道元禅師は六年ほど師事していた栄西禅師の高足である明全和尚らとともに入宋し、天童如浄禅師に参じ一二二五年（南宋の宝慶一年）に得悟、中国曹洞禅の正脈、只管打坐の禅を受け、一二二七年（安貞一年）に、帰国し日本曹洞宗を開かれました。日本に仏教が伝来したのは、私的にはすでに帰化人が仏法を信奉していたと思われませんが、公的には、五三八年、百済（現在の韓国西部・南西部）の聖明王が使者を通して仏像や経典を送ってきたことが、日本への仏教伝来（公伝）とされています。

す。百済には三八四年に東晋（中国）から摩羅難陀という僧が来訪したことが初伝とされています。

そして、インドの仏教が中国へ伝来するまでには、少なくとも五〇〇年の歳月を必要としました。この理由は海路ではなく陸路であったからだと思います。数多くの国々を経由していくうちに仏教は本来の教義に加え、そこにいる人々の考えや道徳を少なからず反映されて中国へ渡って来たと思われられます。また、中国に仏典がもたらされ翻訳が開始されるのは二世紀中葉、その頃の日本は弥生時代後期にあたります。後漢の桓帝の時代に安息国（パルティア）現在のイラン北部・中央アジアの一部）の安世高（あんせいこう）が渡来し洛陽で訳経し、続いて月氏国（現在のアフガニスタン北部・タジキスタン・ウズベキスタンあたり）から支婁迦讖（しるかせん）が来朝し道行般若経など大乘経典を翻訳しました。小乗は安世高、大乘は支婁迦讖により、初めて中国に伝えられました。中国人が初めて接した仏教徒はインド本土出身者ではなく西域地方の人々だったことがわかります。また、三世紀になると、中国僧（朱士

行・法顕）が、仏典を求めて西域に赴きました。

遙か遠い道のりを経て、厳しい時代（夷夏論など）と協調しながら、千年の時を超え、お釈迦様の教えが日本へ伝来されました。

## 当寺に伝わる〈つぼ〉の話

龍泉寺東堂 岡部 正孝

当教区（羽後町十五教区）に限らず、近隣の御住職や東堂様とお会いした折、話題になったことで、なるほどと思ったことがあります。それは寺院とは直接関係がなくても、個人の趣味のような分野でも互いに交流を深めるなかで、紹介し合う場があれば良いという意味の内容でした。

さて、当寺について何か話題性のあるものは何かと考え、当寺に伝わる〈つぼ〉について書いてみることにしました。

七高山「シチコウサン」という小高い山があります。今ではこの村の村社が頂上にありますが、昔は清岩寺「セイガンジ」という寺院があったと伝えられています。この山の禁

から昭和の初め出土した〈つぼ〉があります。（珠洲系陶器壺Ⅱ十三世紀前半）中ごろの遺物にて、口径二十六センチ、底径十センチ、器高三十五・七センチ。現在、町の歴史民俗資料館に展示されています。

羽後町では現存する中世陶器は断片的に出土しただけであって、この〈つぼ〉には同伴遺物（異なる種類の遺物が同じ遺跡の同じ場所や同じ層から一緒に出土し、互いに関連性があるとされる遺物）もあり、資料の少ないこの時期の有力な資料とされています。

各地にも類似した資料は数多く存在すると思いますが、やはり実物を目の前にすると〈つぼ〉の向こうに広がる歴史や物語に思いを馳せ、夢が膨らむ気持ちになります。

# トピックス

◎令和七年秋の叙勲

藍綬褒章

十八教区 源守院住職

越姓 玄悦 老師

瑞宝双光章

八教区 龍像院住職

山谷 尚円 老師

保護司として、犯罪や非行をした人の立ち直りを支える活動に、長年尽力されました。受章おめでとうございます。法体堅固にて更なるご活躍をお祈り致します

〔県内寺院窃盗事件への注意喚起〕  
前号でもお伝えしましたが、県内曹洞宗寺院において、本堂・庫裏への侵入・盗難事案が報告されており、各ご寺院様におかれましても、改めて防犯意識を高め、実施可能な対策をしていただきたく存じます。  
被害の拡大を防ぐため、県内寺院全体で警戒を強めていくことが重要です。万が一、不審な出来事や被害に遭われた際には、速やかに警察へ通報するようにしてください。

## 令和七年徒弟研修会開催について

期 日 三月三十一日(火) 十時受付～十六時解散

会 場 秋田県宗務所・禅センター

対 象 高校生以下の県内寺院の子女・親戚  
(得度・未得度問わず)

定 員 三十名(開催最少人数 五名)

参 加 費 千円

所 持 品 法衣(なくても可) 筆記用具

申 込 締 切 三月十三日(金)までに

お電話にて秋田県宗務所迄お申込ください。  
(〇一八八六八八―六八七二)

○対象の方がいらっしゃいましたら受講をお勧め下さいますようお願い致します。  
~~~~~日 程~~~~~

- 10:00 受 付
  - 10:15 オリエンテーション 自己紹介  
(合掌又手定印 希望者は着付けも)
  - 10:45 開会式  
(般若心経 宗歌 回向 所長法話)
  - 11:15 坐禅指導・引き続き坐禅
  - 12:00 昼 食
  - 13:00 法 話 (宗務所職員)
  - 13:50 休 息
  - 14:00 坐 禅
  - 14:40 休 息
  - 15:00 感想文作成
  - 15:30 終了式  
(般若心経 宗歌 回向 所長挨拶)  
記念撮影
  - 16:00 解 散
- ※状況により変更する場合がございます。

## 令和八年度 山門法要(予定)

| 日 程          | 教 区 | 寺 院 名 | 法 要      |
|--------------|-----|-------|----------|
| 6月 6～ 7日     | 5   | 桂菌寺   | 晋山・結制・退董 |
| 6月13～14日     | 4   | 珠林寺   | 晋山・結制・退董 |
| 6月13～14日     | 18  | 宝田寺   | 晋山・結制・退董 |
| 6月20～21日     | 18  | 森昌寺   | 晋山・結制・退董 |
| 9月 5～ 6日     | 5   | 桐善寺   | 晋山・結制    |
| 9月11～12日     | 14  | 禅林寺   | 晋山・結制・退董 |
| 10月17～18日    | 14  | 龍雲寺   | 晋山・結制    |
| 10月24～25日    | 3   | 瑞林寺   | 晋山・結制    |
| 10月31日～11月1日 | 2   | 乗江院   | 晋山・結制・退董 |



令和7年10月10日 現職研修会 歡喜寺様にて



令和7年10月16日 大本山永平寺  
南澤道人不老閣下拜問記念  
第55回秋田県宗務所檀信徒本山研修会にて